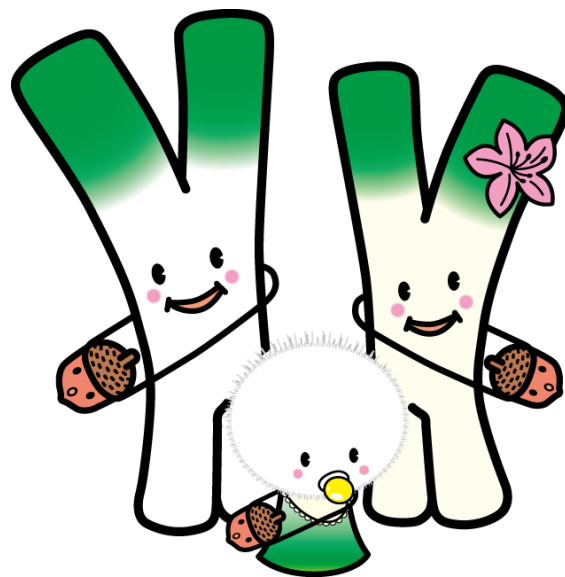


令和3年度

男女共同参画に関する 市民意識調査報告書

概要版



米子市

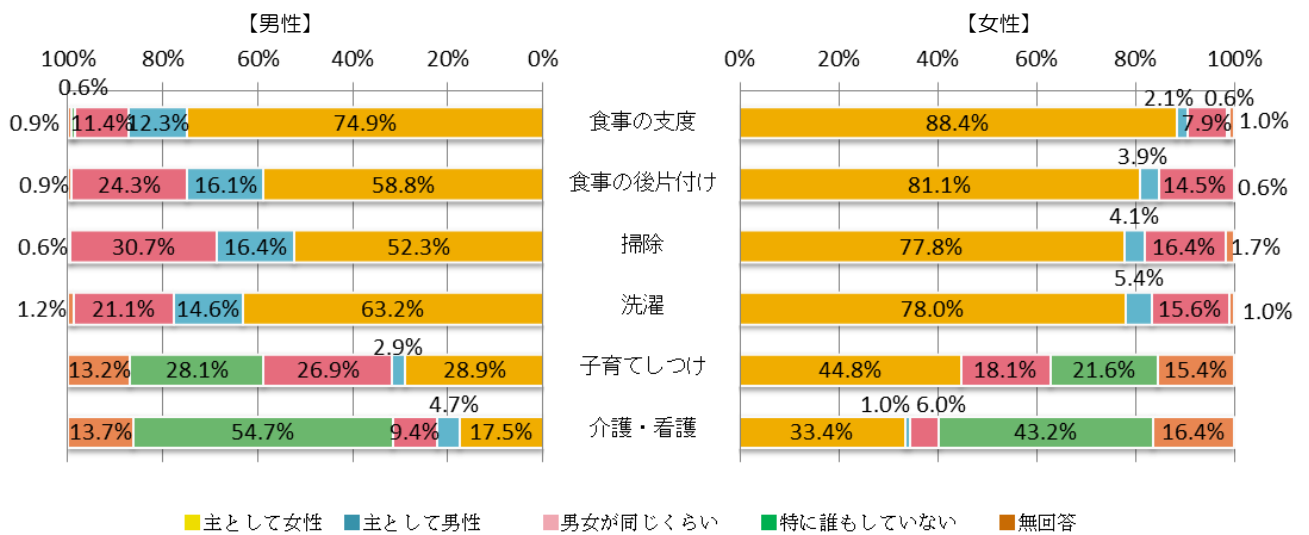
1 家庭での役割について

家庭での役割分担

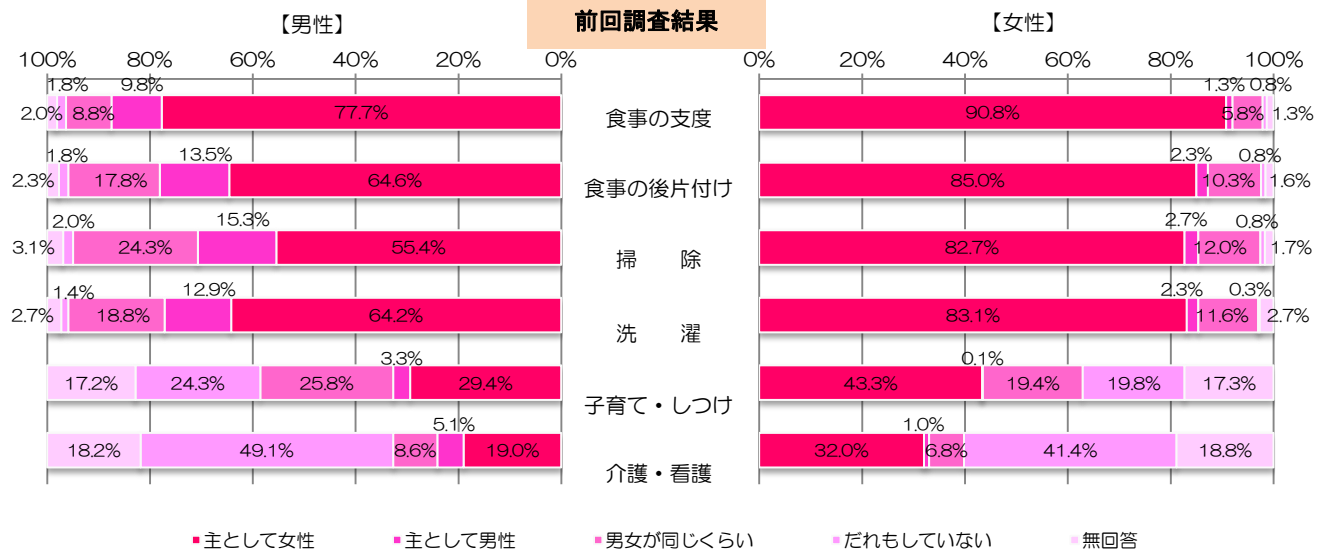
「食事の支度」「食事の後片付け」「掃除」「洗濯」のいずれも、「主として女性」がしているという回答が多くなっています。前回調査よりわずかに減ってきていますが、家事を女性が担う傾向は、変わっていないことがうかがえます。

「介護・看護」「子育て・しつけ」でも、「主として女性」という回答の割合が高くなっています。

全ての項目で、男女の間で認識の違いがあって、「主として男性」「男女が同じくらい」しているという割合は男性より女性の方が低くなっています。男性が家庭内で担っている役割が、女性にとっては不十分に感じられているようです。

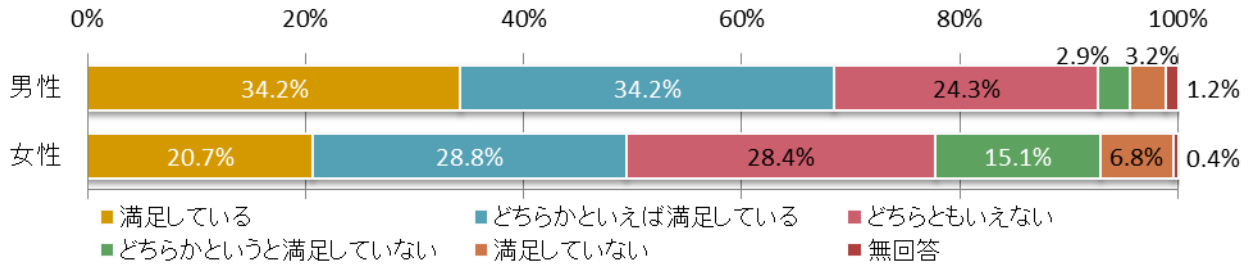


前回調査結果



家庭での役割分担の満足度

「満足している」「どちらかといえば満足している」とする割合は、男性より女性の方が低くなっています。また、「どちらかといえば満足していない」「満足していない」の割合は、男性より女性が高くなっています。これらのことから、女性は男性ほど家庭での役割分担のあり方に満足していないことがわかります。

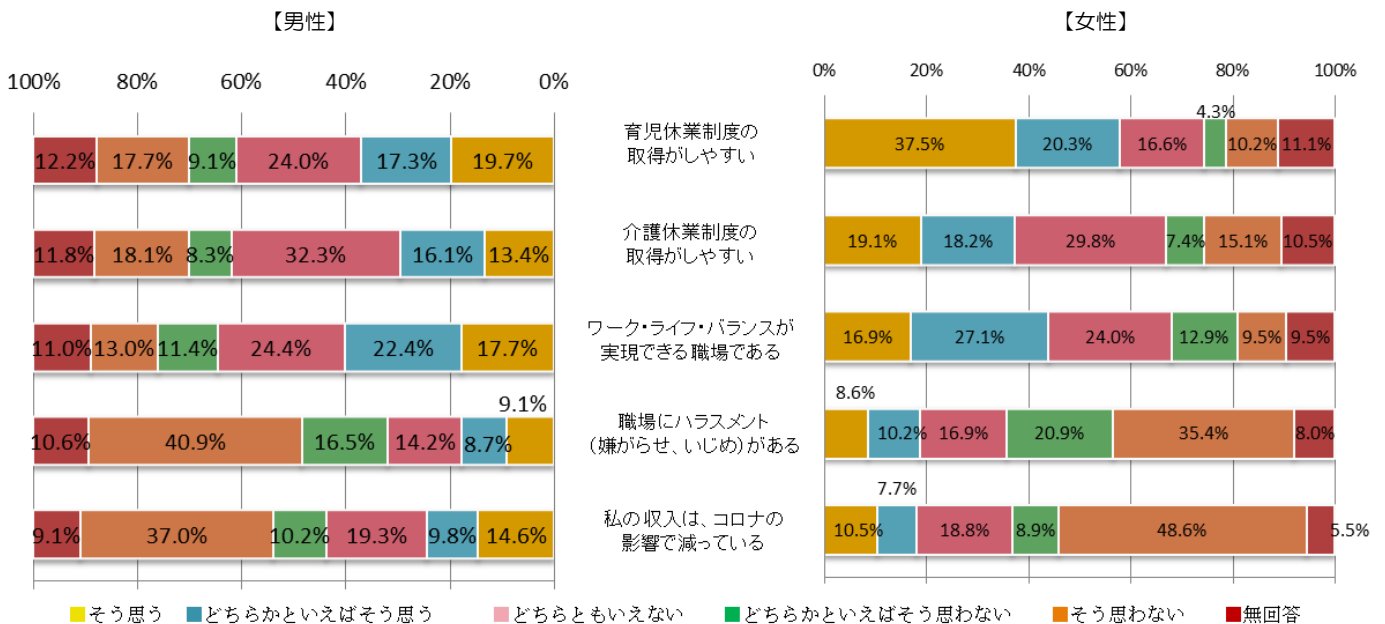


2 就労について

職場の現状

休業制度の取得に関する項目では、男女で傾向の違いが見られます。育児休業制度や介護休暇制度の取得がしやすいと思う人の割合が、女性より男性が低くなっています。男性の方が家族のケアのために休業することへのハードルが高いことがうかがえます。

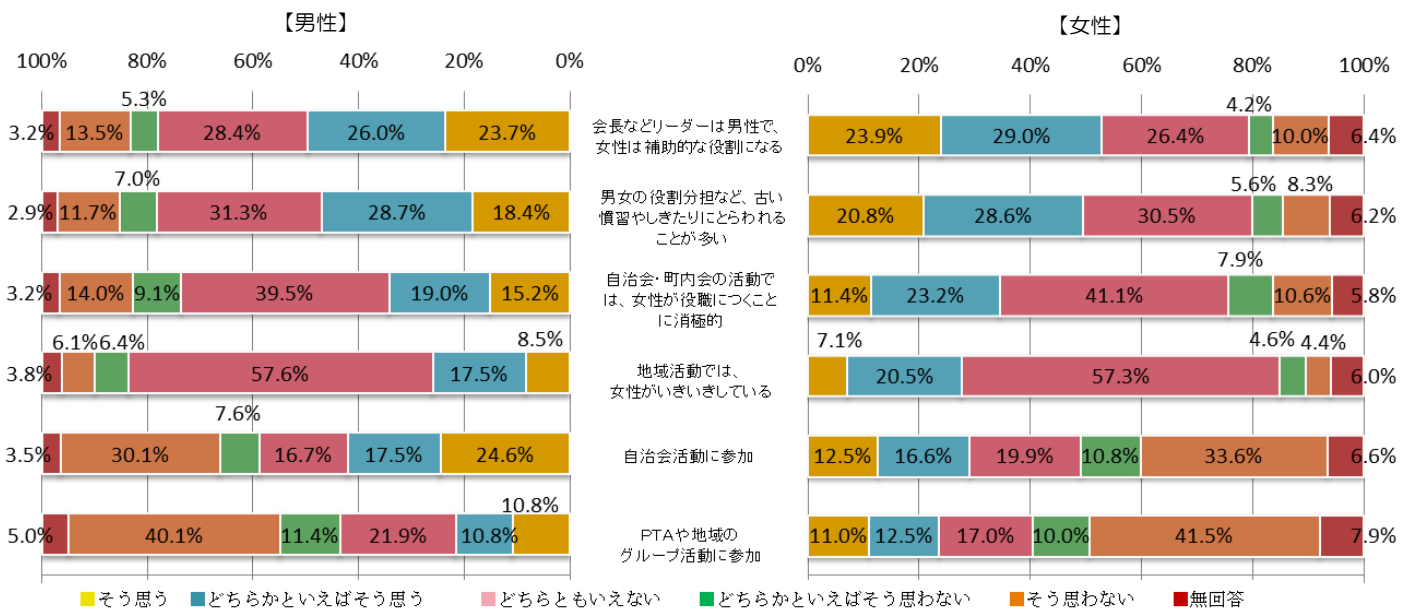
「ワーク・ライフ・バランスが実現できる職場である」と思う人の割合は、性別での違いはほとんど見られません。



3 地域活動などについて

地域の現状

地域の現状について、地域活動では、「会長などのリーダーは男性で、女性は補助的な役割になる」と回答した割合は、男女ともに約50%となっています。また、「男女の役割分担などが古い慣習やしきたりにとられることが多い」と回答した割合も高くなっていることから、地域社会において、性別にとらわれた役割分担から抜け出せていないと多くの市民が感じていることがうかがえます。



4 ドメスティック・バイオレンス、セクシャル・ハラスメントについて

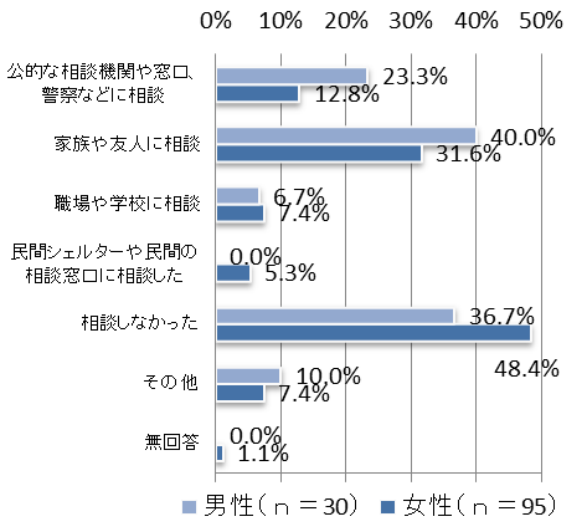
ドメスティック・バイオレンス、セクシャル・ハラスメントの経験・認知

		被害者としての経験がある	加害者としての経験がある	身近に被害を受けた人がある	被害を受けた人から相談されたことがある	実際に経験したり見聞きしたことはないが内容は知っている	知らない	無回答
DV	男性	3.2%	2.3%	3.8%	2.0%	58.5%	30.4%	2.3%
	女性	9.5%	1.2%	6.4%	4.8%	59.8%	18.5%	3.5%
セクハラ	男性	2.0%	0.9%	4.7%	1.5%	59.9%	30.7%	2.0%
	女性	6.4%	0.4%	3.9%	1.5%	62.4%	23.2%	3.1%

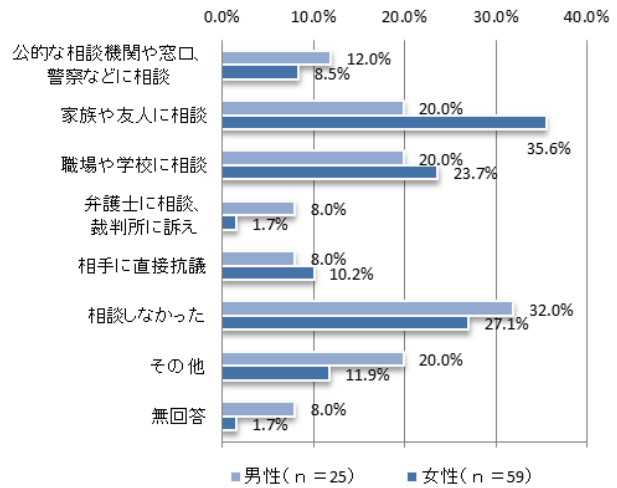
※複数回答可

DV、セクハラを経験・認知について、「被害者としての経験がある」と回答した割合は前回調査とあまり変わっていません。また、DVに対する相談先、セクハラへの対応については、「相談しなかった」が男女ともに多くなっています。

DVに対する相談先



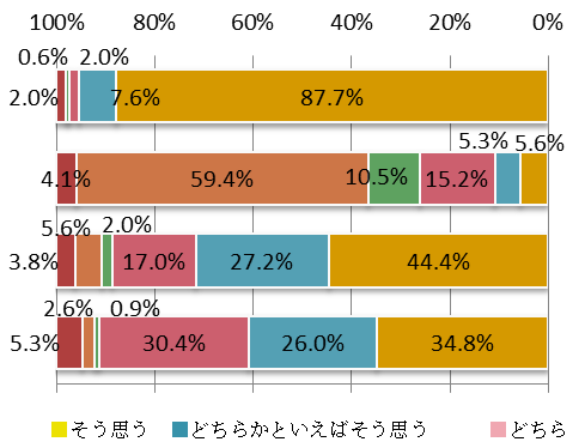
セクハラへの対応



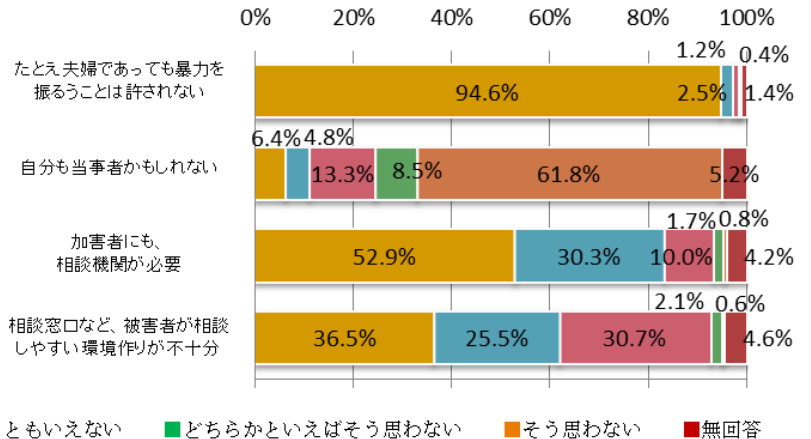
ドメスティック・バイオレンス、セクシャル・ハラスメントに対する考え方

DV、セクハラに対する考え方については、「たとえ夫婦であっても、暴力を振るうことは許されない」と思う割合が高くなっています。また、DVやセクハラ相談窓口や環境作りの充実の必要性も、多くの人に認識されていました。

【男性】



【女性】

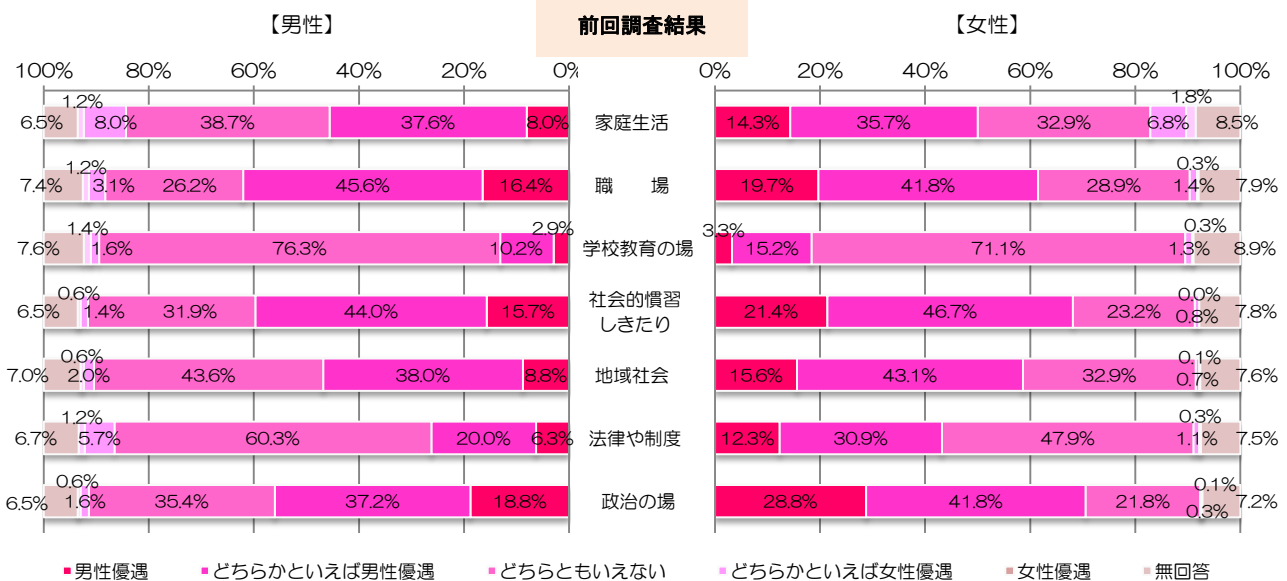
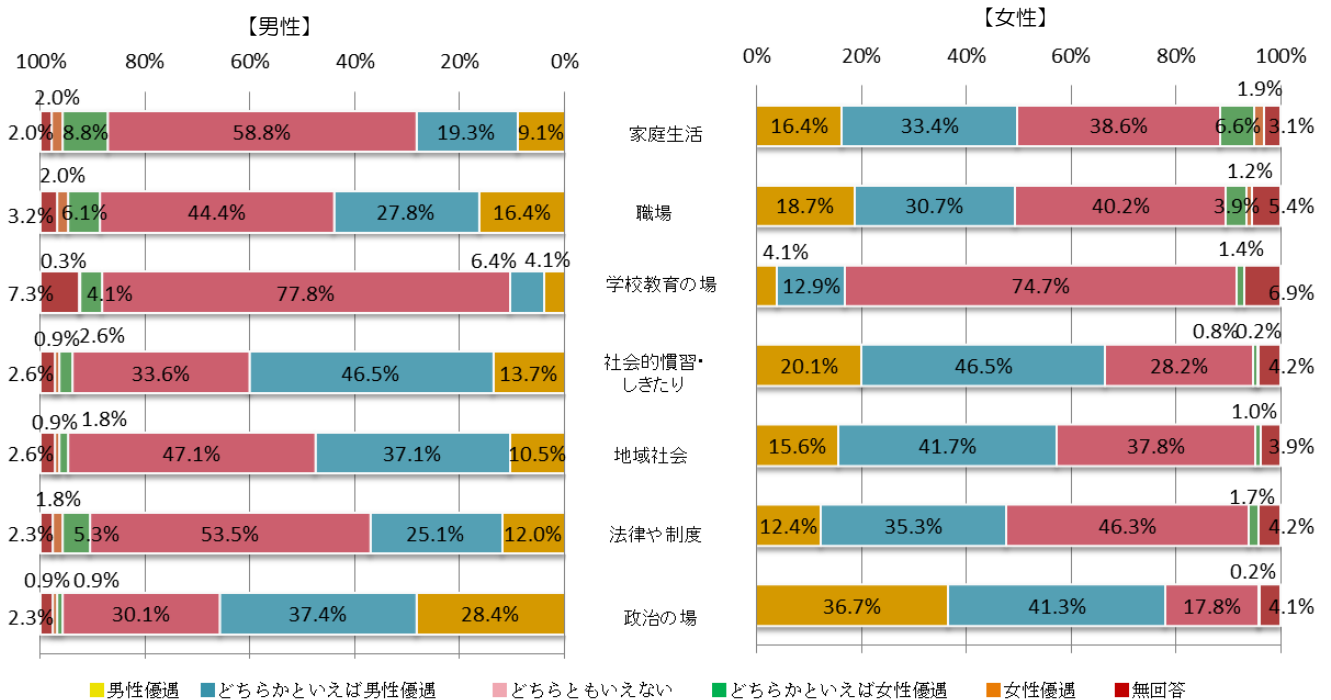


5 男女共同参画に関する意識や考え方について

男女平等についての意識

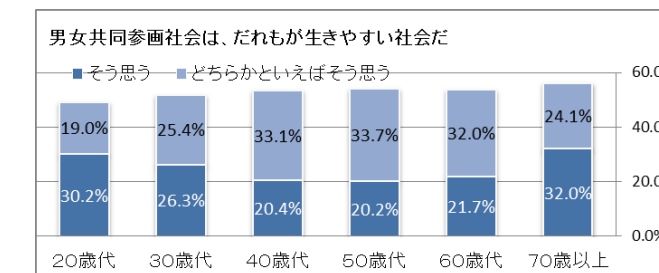
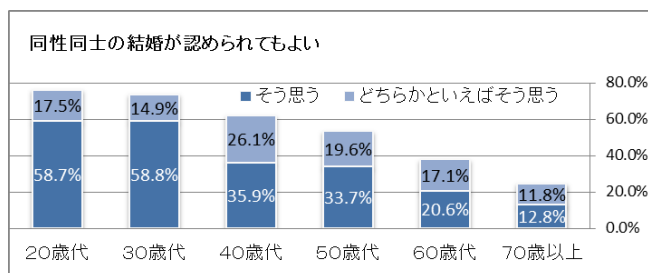
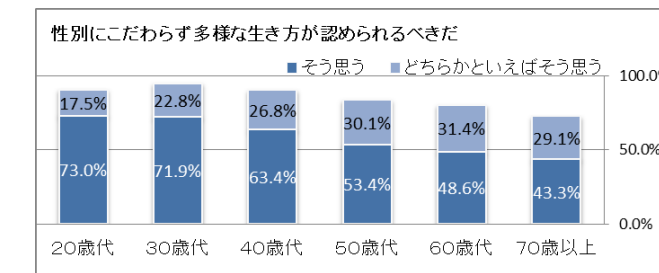
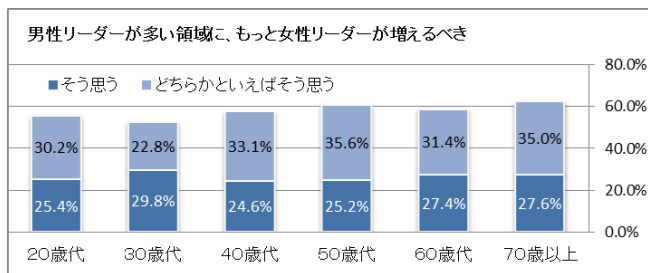
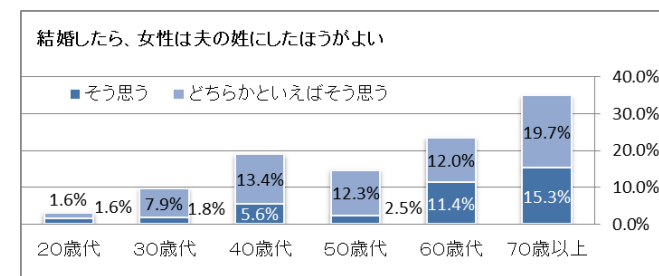
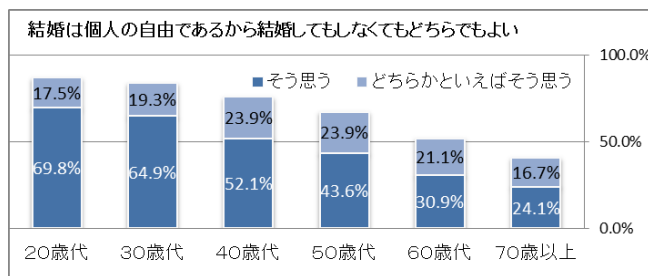
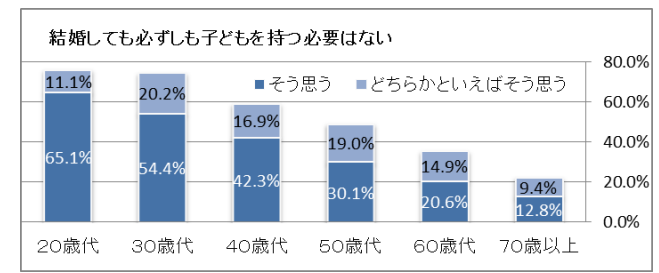
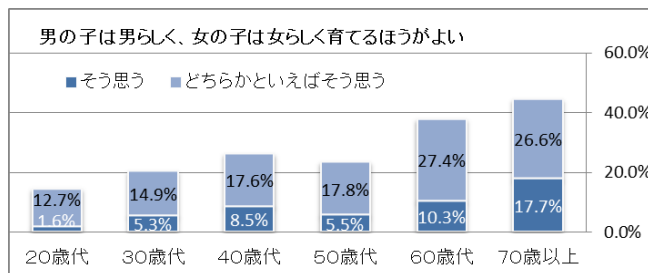
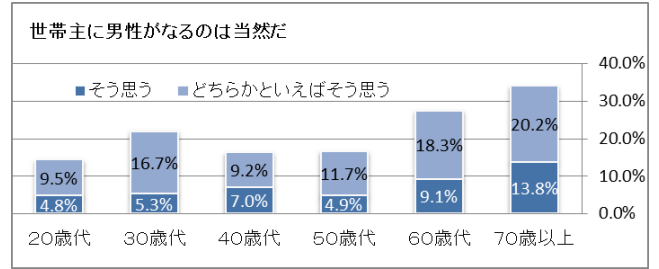
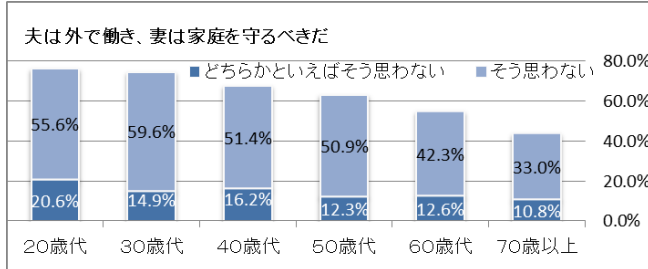
男女平等についての意識については、すべての項目において、「男性優遇」と回答した割合が「女性優遇」と回答した割合を上回っています。また、性別による認識の違いも見られ、男性よりも女性の方がより「男性優遇」「どちらかといえば男性優遇」という認識を持っていることがうかがえます。

前回調査と比べて、「男性優遇」「どちらかといえば男性優遇」とした割合は、「家庭生活」「職場」「学校教育の場」では減少し、「法律や制度」「政治の場」では増加していました。



男女のあり方についての考え方

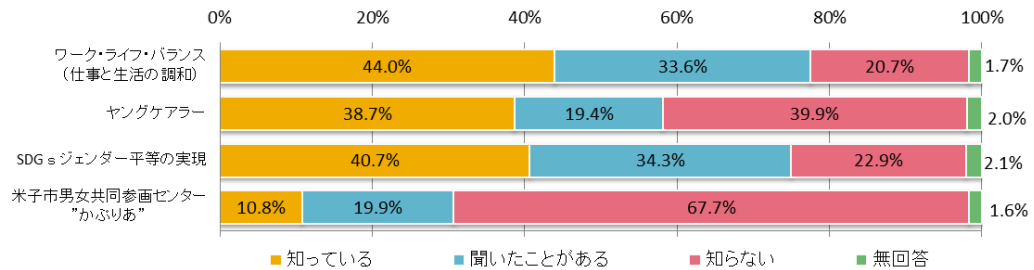
この問いでは、性別による違いよりも年代による違いが顕著でした。若年層ほど、固定的な性別役割分担意識にとらわれない生き方を追求することが望ましいと考えていることがわかりました。



6 男女共同参画社会に関する施策について

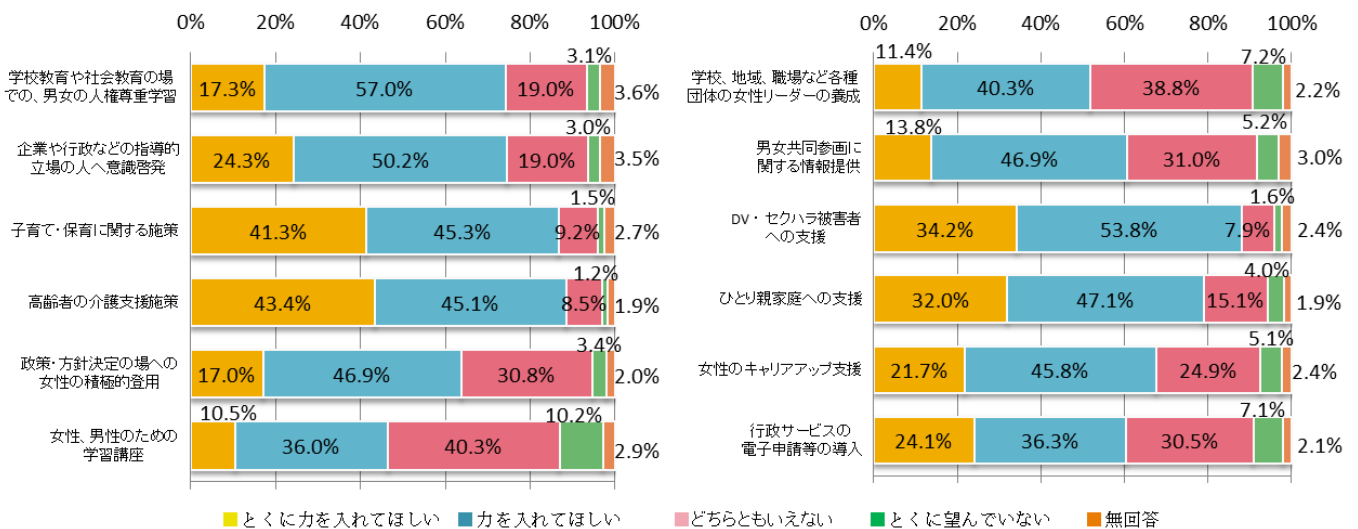
用語の認知度

「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」「SDGs ジェンダー平等の実現」の認知度が高くなっています。また、「ヤングケアラー」は、過半数に認知されていました。



米子市が行う施策について

米子市が行う施策については、様々な分野での施策の充実が望まれています。子育て・保育に関する施策、高齢者の介護支援に関する施策、DV・セクハラ被害者への支援の充実を望む割合が特に高くなっています。



【調査の概要】

- 調査区域：米子市全域
- 調査対象者：市内在住の20歳以上の市民
- 対象者数：2,000人
- 抽出方法：住民基本台帳から無作為抽出
- 調査方法：郵送による配布・回収
- 調査期間：令和3年9月9日～10月5日
- 有効回収数：866件
- 有効回収率：43.3%

※「前回調査」とは、平成28年度に実施した「男女共同参画に関する市民意識調査」のことをいいます。
 ※百分率(%)の計算は小数第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

米子市総合政策部男女共同参画推進課

〒683-8686 米子市加茂町1丁目1番地 米子市役所本庁舎4階
 TEL:0859-23-5419 / FAX:0859-23-5392 / E-mail:danjyo@city.yonago.lg.jp